

はしがき

一九九七年七月のタイ・バーツ切下げに端を発したアジア通貨危機は、瞬く間に、他の ASEAN 諸国や韓国などへ伝染し、東アジア全域の経済に深刻な悪影響を与えた。それまで順調に経済発展が進んでいたこの地域の諸国が、これほど大きな通貨危機に巻き込まれたということは、世界中の経済学者や実務家、官僚たちを驚かせた。これ以後、アジア通貨危機の原因やその対策をめぐって、さまざまな議論がまきおこった。

わがアジア経済研究所においても、アジア通貨危機に関する多くの研究が行われてきた。その成果として、私が関係しただけでもトピックリポート二冊、研究双書一冊がとりまとめられている（アジ研トピックリポート『97年アジア通貨危機——東アジア九ヶ国・地域における背景と影響を分析する』福島光丘、滝井光夫編、一九九七年十二月／アジ研トピックリポート『97/98アジア経済危機 マクロ不均衡・資本流出・金融危機と対応の問題点』国宗浩三編、一九

九八年十二月／『アジア通貨危機——その原因と対応の問題点』国宗浩三編、研究双書、アジア
経済研究所、二〇〇〇年一月／『金融と企業の再構築——アジアの経験』国宗浩三編、研究双書、
アジア経済研究所、二〇〇〇年十二月。

このように大きな注目を浴びたアジア通貨危機も一九九九年に入ると、一応の終息をむかえた。ほとんどの国では再び経済成長率は回復し、為替レートの変動も安定化した。しかし、通貨危機と前後していくつかの国では銀行などの金融機関の経営不振や巨額の不良債権問題の発生といった金融危機を経験していた。そして、その後始末という厄介な問題がいまだに残っている。日本のバブル経済崩壊後の不良債権問題でも、十年以上にわたった現在でもその後遺症が残っているように、これらの国でも金融危機の後始末に関してはこれからが正念場である。

この本では、前半部分でアジア通貨危機について、後半部分で金融危機とその後始末についての話題を取り上げる。

最初の三つの章では、アジア通貨危機の原因をめぐるさまざまな説を紹介するとともに、筆者なりの結論を示した。

四番目の章では、アジア通貨危機に際してのIMF（国際通貨基金）の支援策が妥当で

あつたかどうかについて解説した。ここでも、筆者なりの結論が示される。

五番目以降の章では、金融危機への対応を解説するが、「企業の問題」と「銀行の問題」の二つに大きく分けて考える。

全体を通じて、できるだけ筆者なりの結論を示すように心がけた。これは、筆者にとってはすこし怖いことである。実際のところ、アジア通貨危機に関しては、きわめて多様な見方がなされてきており、危機の原因ひとつとっても学者たちの意見は分かれているのが現状である。また、それぞれの説が、現実の一面の真理を少しづつ反映していることも確かである。

しかし、「アジア通貨危機にはいろいろな側面がある」で終わったのでは、面白くないだろう。そこで、ある意味で強引すぎたかもしれないが、筆者の見方を色濃く、かつ強調して記述することにした。よって、本当なら「……という傾向がある」とか、「……とも考えられる」と書きたいところを、あえて「……である」と断定調で論を進めたところも多い。

当然、読者の方々のなかには「異論」をお持ちの方も大勢いらっしゃると思うが、「一

つの見方」として割り切って最後までおつきあい頂きたい。その上で、批判的に吸収して頂ければ、筆者としては本望である。

また、本書は「入門書」として、経済学の知識がない方でもわかるような記述を心がけた。後半の金融危機の部分では一部、込み入った説明が必要となる部分があるものの、全体的には数学的な記述は最小限に抑えてある。アジア通貨危機、金融危機の解説を通じて「国際金融論」や「金融論」などの諸概念を知る入門書として利用して頂くことができると思う。

厳密な定義を示すというよりは、わかりやすい意味を示すという方針で、為替レート、国際収支、構造改革、国際資本移動、IMF、企業と銀行の再建、などにかかわる経済学のとピックを紹介してある。あらゆるとピックを取り上げたとまでは言えないが、かなり広範囲にわたって網羅できたと思っている。

なお、本書の第三章、第四章は前掲したアジ研トピックリポート『19798アジア経済危機——マクロ不均衡・資本流出・金融危機と対応の問題点』の第2章「国際金融市場の問題点と資本取引規制」および第4章「IMFの役割」に加筆・修正を加えたものである。

加筆・修正を快諾して下さい。いただいた原論文の共著者である小田尚也（第2章）、柏原千英（第4章）の両氏に感謝の意を表したい。（このトピックリポートの全文は、アジ研ホームページ <http://www.ide.go.jp/> で閲覧することができますので、あわせてごらん頂きたい）。

二〇〇一年三月

国宗浩三